

「脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討」

CSPS.com 研究 ご参加のお願い



CSPS.com 研究代表者

国立循環器病研究センター名誉総長

山口 武典

この度、「脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性に関する研究」を企画いたしました。

現在、心原性脳塞栓症を除く脳梗塞の再発予防にはライフスタイルの改善、危険因子の管理とともに、抗血小板薬の投与が必須となっています。しかし、最も多くのエビデンスがあるアスピリンでも虚血性血管イベント予防効果は、相対リスク減少率で25%前後に過ぎません。そのため、予防効果を高める目的で、異なる作用機序の抗血小板薬の併用療法（アスピリン＋クロピドグレル、アスピリン＋ジピリダモール）の検討がなされてきましたが、長期に亘る併用療法では、虚血性イベントの発症は変わらず、むしろ出血性合併症の頻度を高めるという結果が得られております。

そこで今回、非心原性脳梗塞の患者を対象として、アスピリンまたはクロピドグレルに出血性合併症が少ないとされるシロスタゾールを併用した群（併用群）と、アスピリンまたはクロピドグレルだけの群（単独群）に割り付け、1～3年間の追跡中の脳梗塞の発症（有効性）と出血性合併症（安全性）の頻度を両群間で比較する研究、すなわち「多施設共同非盲検無作為化群間比較法による前向きコホート研究」を計画いたしました。

日本で開発された薬剤を用いて、日本発のエビデンスを発信しようという本研究の趣旨にご賛同いただき、是非ともご参加頂きますようお願いいたします。